

第1回 武蔵野市多文化共生推進懇談会会議録（要録）

【会議概要】

日 時	令和4年6月29日（水）19:00～21:00
場 所	武蔵野市役所 西棟4階 411会議室
出席委員	薦田委員、新居委員*、田村委員*、木下委員、中澤委員、ウ委員、田川委員 （*はオンライン参加）
事務局	多文化共生・交流課職員
傍聴人	10名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員自己紹介 3. 事務局紹介 4. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 武蔵野市多文化共生推進懇談会の傍聴について (2) 武蔵野市多文化共生推進懇談会の役割について (3) 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）策定の進め方について (4) 外国籍市民意識調査及び各種調査の結果について (5) 現状と課題についての意見交換 (6) その他
配布資料	<p>資料1 武蔵野市多文化共生推進懇談会 委員名簿</p> <p>資料2 武蔵野市多文化共生推進懇談会傍聴要領（案）</p> <p>資料3 武蔵野市多文化共生推進懇談会設置要綱</p> <p>資料4 武蔵野市多文化共生推進プラン庁内検討委員会設置要綱</p> <p>資料5 武蔵野市多文化共生推進プラン策定スケジュール案</p> <p>資料6 「地域における多文化共生推進プラン」改訂のポイント （令和2年9月10日 総務省自治行政局国際室）</p> <p>資料7 武蔵野市第六期長期計画（44～45 ページ、72～74 ページ抜粋）</p> <p>資料8 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）掲載項目イメージ</p> <p>資料9 武蔵野市外国籍市民意識調査報告書</p> <p>資料10 武蔵野市外国籍市民意識調査報告書 概要版</p> <p>資料11 外国人在留支援センター（FRESC）ヒアリング実施報告</p> <p>資料12 公益財団法人武蔵野市国際交流協会パンフレット</p> <p>資料13 多言語サービス庁内実態調査結果</p> <p>資料14 武蔵野市の外国人人口の推移（各年1月1日現在）</p> <p>資料15 国籍別・在留資格別 在留外国人</p>

【議事】

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 事務局紹介

4. 議題

(1) 武蔵野市多文化共生推進懇談会の傍聴について

武蔵野市多文化共生推進懇談会傍聴要領（案）について事務局からの説明を受け、承認した。

(2) 武蔵野市多文化共生推進懇談会の役割について

懇談会及び庁内検討委員会の設置、懇談会の役割について、確認・承認した。

(3) 多文化共生推進プラン（仮称）策定の進め方について

策定の流れについて、事務局からの説明があった。

E委員	武蔵野市第六期長期計画について、多文化共生というキーワードが初めて載ったという説明があったが解説をお願いしたい。
事務局	第五期長期計画までは、「市内に在住する外国人等への日常生活支援」という視点だったが、そこから多文化共生という少し広い概念に変わっている。
D委員	スケジュールのところで、庁内検討委員会というのが別にあるが、この懇談会は、その案を受けて、それについて意見を言ってそれを庁内検討委員会に届けてもらうということか。
事務局	おっしゃるとおり。庁内検討委員会が出したことに對して懇談会でご意見を出していただき、それを受けて庁内検討委員会が検討して、それに対してまた懇談会で意見を出していただくという形でキャッチボールしていきたい。
C委員	資料6の全国の多文化共生推進プラン策定状況について、総務省のホームページに、今年の4月現在のデータが出ているので、共有をお願いしたい。 法律には定められてないが自治体が独自にこういうプランを作るというのは、最近だと同性カップルのパートナーシップ制度が勢いがあり、この4月現在で200を超え、長年やっている多文化共生のほうが、単独でプランを作っている自治体数では少なくなっている。どちらも良いことだが、共生プランをもっと単独で作っていく自治体が増えていけばいい。 もうひとつ、国のほうの「外国人との共生に関する関係閣僚会議」が外国人との共生社会実現のためのロードマップを出し、向こう5年間で各省庁が何をやるということを矢印で書いていて、プランを作っていく上で大変参考になると思うので、共有していただければ。

(4) 外国籍市民意識調査及び各種調査の結果について

外国籍市民の人口の推移、国籍及び在留資格の傾向、令和3年度外国籍市民意識調査の結果、FRESC・多言語サービス庁内実態調査の結果について、事務局からの説明があった。
武蔵野市国際交流協会（MIA）の概要について、説明があった。

説明	<p>MIA は元々、武蔵野市が自治体としてできる世界平和への貢献について平和問題懇談会により議論された結果できた組織で、地域から世界平和を実現していくために作られた団体。MIA の大きな特徴は、ほとんどの事業がボランティアによって行われているところである。</p> <p>事業の柱は、在住外国人の生活支援、コミュニケーション支援、多文化共生の地域づくりの三本であり、日本語教室や外国人相談で日々外国人の方と接して、相談事を聞いたり日本語教室にいらっしゃる方のサポートをしている。</p> <p>外国籍市民意識調査のアンケートやヒアリング等の結果で「MIA を知らない」という方がたくさんいたということだが、回答された方の日本語のレベルがかなり高かったこともあり、MIA のサポートが必要ななかった人たちが答えられたのかなというふうには思う。日々の実感としては、まだまだサポートが必要な外国人の方が地域にたくさんいらっしゃる。しかもその外国人の方が子育てをされていたり、別のハンディや困難を抱えている方がたくさんいらっしゃるので、やさしい日本語で済む段階はいいが、それから一步踏み込んだサポートが必要になったときに、やはり個別の相談などでは通訳も考えていかなければいけないのではないかと感じている。</p>
事務局	調査結果等についてのご質問やご意見は。
C委員	<p>3点ある。</p> <p>一つ目は、やさしい日本語について、武蔵野市では何かガイドラインを定めたり、定義を決めたり、職員の方が研修を受けたりして使っているものか。</p> <p>二つ目、武蔵野らしさというところは、国際交流協会も他の地域と比べると早くに設立をされて、多くのボランティア市民の参加を得ながらこれまで国際交流や多文化共生の活動に取り組んできた点だと思うので、ボランティアの参加人数や活動状況についてのデータもあるとよい。また、地域でも色々な活動があるというのが武蔵野の一つの特徴だと思うので、そういったデータがもしあれば、用意してもらえるとプラン策定の大きなヒントになるのではないかと。外国人の方も積極的に色々な活動に参加されているのではないかと。思うので、そういった様子がわかればよい。</p> <p>三つ目は、MIA を知らないのが59.6%というのは、全然悲観すべきことではなく、裏返せば41%の人は知っているということだから、かなりの知名度</p>

	<p>だ。他でも国際交流協会を知っているかというアンケート調査で、知っている人と答える人はせいぜい1割～2割なので、それをみんな落胆するが、今テレビの視聴率だって1桁なのだから、けっこうな人が知っていると思ったほうがいいじゃないかと私はいつも申し上げている。</p>
事務局	<p>一点目のやさしい日本語について、市で特に定義はしていない。研修については、ここ2年間実施している。昨年度は職員60名ほどの申込があり、勉強になったという意見が寄せられた。</p>
A委員	<p>MIAで行っている事業のほとんどが、外国人も含めたボランティアの力で実施されている。例えば日本語教室で活躍されている日本語学習支援ボランティアを私たちは日本語交流員と呼んでいて、「先生と生徒という関係性ではなくて、市民同士の学び合いの活動ですよ」という場づくりをしている。在住外国人の方にも、日本語交流員になっていただいている。</p> <p>小さなお子さんがいらっしゃる外国人の方ほど、生活に必要な日本語を習得する必要が高いが、なかなか学習する場がないということで、MIAの日本語教室に来たときに保育ボランティアの方がお子さんを預かって、その面倒を見てもらっている間に日本語を学習するというような形になっていて、保育ボランティアにもたくさんの方々が協力してくださっている。その外国人の方たちの中には元々日本語教室で自分が学ばれて、子どもを預けて学んでいたのも、今度は私がボランティアをしますよという形でボランティアをしてくださっている方もいる。</p> <p>それ以外にも、自分の得意なことや語学を、外国人ならではの得意技を生かしてボランティア活動をする方がたくさんいらっしゃるし、そういった方が多文化共生の地域づくりに一緒に取り組んでくださっている。</p> <p>今日配付した「むさしの FRIENDS」という機関紙は職員が取材をして記事を書いており、色々な地域の方や東京都内の他の団体とも連携しながら事業を行っている様子が伝わるかと思い配付した。</p>
F委員	<p>C委員のおっしゃった通り、私もやさしい日本語の定義を気にしている。</p> <p>例えば子ども向けの言葉で話すと、私は中国出身で漢字がよく読めるので、逆にそういう言葉が私にとっては難しい日本語である。読むときと聞くときもまた違う。調査結果でやさしい日本語がかなり選ばれているが、「普通の日本語」という選択肢がないことが気になっていて、私はそのアンケートに答えたときに「普通の日本語」という選択肢がないのでやさしい日本語を選んだ。やさしい日本語の回答がすごく高い比率というのは、本当にやさしい日本語のことだけを指しているのか、気になる。</p> <p>あとMIAについて、私も最近MIAに助けていただいた。税金等でわからないことがあったのがきっかけで、6年間住んでいて初めて気づいた。日本語</p>

	<p>の日常会話ができても、例えば税金とかの話になると、単語がわからないといった問題が発生して、普段どれほど流暢に話せたとしてもそういう特別な状況ではすごく大変だということは外国人の共通点だと思うので、そこに対する支援はすごく大きいと思った。私は6年間住んでようやく知ったのだが、例えば市役所で住民登録をするときに外国人に MIA についてのパンフレットは配布しているか。配布したほうがすごくありがたいと思う。</p>
G委員	<p>外国籍の方には窓口で住民登録の対応をするとき、その方の日本語の能力を見て MIA のパンフレットを入れている。委員が武蔵野市に入られたときは、流暢で日本語に障壁がないということで、不要と判断したのかもしれない。</p>
A委員	<p>日本語が堪能な方でも専門家相談のときには通訳がほしいとおっしゃるので、入れていただけるとありがたい。</p>
E委員	<p>資料 10 のアンケートを見て、非常に面白いと思った。1 ページ目を見るだけでも、例えば在留資格の中で永住者や、技術・人文知識・国際業務の在留資格を持っている方がとても多い。それから武蔵野市近辺には五つの大学があるので留学生の方が多い。なおかつ年齢を見てもそれなりに高い方が多い。やはり武蔵野市の一つの特徴として、非常に人気のあるまちなので、地価も高い。ここに住むことはそう簡単ではないと思う。そのため、特定技能や技能実習の方は非常に少なく、そういう意味では武蔵野市が作るプランは、他のところが作るプランと少し違っていい可能性があると思った。</p> <p>それから、全国と東京を比べると、例えば三鷹市と武蔵野市のどちらに住むかは、かなり自由度のある選択だと思う。つまり近くにたくさん市があるので、その中でなぜ武蔵野市を選ぶのかを考える必要がある。地方のほうだと、職場があるからなどの必然性があるって住むまちが決まるが、この場合は都心や立川に職場があっても武蔵野市を選んで住むことがあるので、その違いも考えた上でプランを作っていく必要があるのではないかな。</p> <p>それから、長期計画での記載が、元々は外国人に対する支援が色濃く出ていたが、多文化共生に変わっているところも非常に面白いと思った。先ほどの MIA の話もそうだが、引き続き支援の必要な方はいらっしゃると思う。来たばかりの方や、言葉の部分も含めて色々な意味で困っている方もいらっしゃると思う。</p> <p>それから、最近のコロナワクチン接種の話や、防災対応など、全員にすべき支援が増えているのも実態だと思う。そのような支援を引き続きやりつつ、ただ、より一歩進んで共生社会をつくっていく。外国から来られた方にも大いに市政に参加していただく。市民の行事にも参加していただく。むしろ積極的に自分の国の文化も、我々日本人の方の理解を深めるためにもぜひ色々ご活躍いただく。支援と共生社会づくりの両方が必要になると思う。共生社</p>

	<p>会だからといって、防災対応やワクチン等を軽視することは決してできないので、そういう意味でプランにも2段階、あるいはもう少し途中があるのかもしれないが、分けて色々と考えていく必要があると感じている。</p>
D委員	<p>4点ある。</p> <p>まず、やさしい日本語について、これは当然外国籍、外国人の方々にどのように制度等を伝えていくかというところで問題になる。一方で、例えば障害のある方に対応している課も、特に知的障害がある方々にどのように伝えていくかという問題もある。海外の役所にはイージーリードというものがある。日本はまだそこが進んでおらず、保護者の方がいるという前提で、そのような対応があまりなされていない。あるいは高齢の方や子ども、あるいは何かしらの疾患があつて理解力が今までどおりではない方など、何かしら言葉を噛み砕いて伝えなければならないカテゴリーの方たちがいる。ただ、全部一緒ではだめだとの話が先ほどあり、色々な課でこれからより深く取り組んでいくべきことなので、どこに違いがあり、どこに共通点があるのか。その共通点を取って、やさしい、伝わりやすい表現のパンフレットなどを作れるといいのかなと思った。あるいは、それが共通のものではだめだということがわかれば、また違うものを作れば良いと思う。</p> <p>それからもう一点は、通訳の必要性。よく聞く話だが、例えば英語圏に20年、30年住んでいる元々日本に住まわれていた方が、日常生活は何も不自由はないが、有事のとき、例えば事故や震災、災害のときは通訳がほしいとおっしゃる方が多い。そう考えると通訳は、必ずどこかで必要になってくるので、やはり準備は必要だと思う。</p> <p>そして質問が二つ。一つは、MIAで個別相談がかなりあるとおっしゃっていたが、生活相談が多いのか。</p>
A委員	<p>元々生活相談がほとんどだったが、在住外国人の方の人数が増え、多様化してきて、問題が複雑になり、専門家相談という形へ変わってきた。</p>
D委員	<p>もう既に専門家の方はたくさんいらっしゃると思うが、ぜひ社会福祉士やソーシャルワーカーを置いていただければと思う。生活相談や問題が複雑化している課題を緩和し解決していくことをプロフェッショナルとして要請されている方たちなので、ぜひそのような人材も活用してもえると良いと思うが、もう既に社会福祉士の方はいらっしゃるか。</p>
A委員	<p>私たちのところはボランティアの力で成り立っていて、専門家の方々も自ら市民活動として手を挙げてくださった方たちが集まっている。弁護士も行政書士も心理カウンセラーも精神科医も皆さん、手を挙げて集まってくださっているので、今度は社会福祉士さんに来ていただけたら本当にありがたい。</p>
D委員	<p>私も社会福祉士なので、ぜひ何かお手伝いさせていただければと思う。</p>

	最後に、ネパールの方が多ということで、いろいろな地域や自治体でコミュニティが出来上がってきていると思うが、武蔵野市ではネパールの方が多い理由は何かあるか。すでにもうコミュニティがあるのか。
A委員	東京都内で全域そうだが、ネパールでの経済状況が困難であること、日本に来やすかったということで、最初に何人かいらして、おそらくレストラン等を経営され、そこから親戚の方とかが、最近増えているのかなと現場では思っている。
D委員	クルドの方たちのコミュニティができたのも、たまたまそこに入っていくと、その方たちが親戚や友人を呼んでコミュニティができていくパターンが多いと伺っているが、武蔵野市はネパールの方たちがそのような形で来ているということか。
A委員	武蔵野市以外でも、東京都内ではもしかしたら武蔵野市もまだまだ少ないほうで、もっとたくさん来ている地域はあるのではないかと思う。
G委員	ネパールの方は確かに多いが、コミュニティが形成されている明確なエビデンスは手に入っていない状況である。
F委員	やさしい日本語の取組みを進めたいのであれば、例えば、実際に外国人に日本語を教えている先生たちに意見を聞いてみると、すごく役に立つと思う。大事なことは色々な国の人に日本語を教えている先生であること。経験の長い先生であれば、アメリカ人はこういうクセがある等、よくある問題がはっきりわかる。例えば、ひらがながいいという国の人、漢字の方がいいという国の人、日常会話の単語であれば漢字があっても大丈夫な人、多分この3～4パターンくらいに絞ることが可能だと思う。やさしい日本語ではなく、ひらがなのみの日本語、ひらがなを追加した日本語、簡単な漢字を使っている日本語など、明確な分け方をすれば、助かると思う。
E委員	資料10のアンケートの回収率43%もなかなか高いと思ったが、これと資料14の全数調査を比べたとき、それほど大きな違いはないのでそれなりにいいサンプリングになっていると思った。しかし、アンケートに答えてくれる人と答えてくれない人は明確に違いがあると考えた方がいいとは思っている。資料14のような全員あるいは全世帯のような形で取れるデータが他にいいのか。かなりのデータが取れているとは思っているが、これ以外にもあるのなら、いろいろ考えていく上で役に立つと思う。
事務局	外国籍市民のうち18歳以上に絞って調査をしたので、数が一定数少なくなっている。またその中で、今回43.1%の回収ができたという結果。今持っているデータとしては、今回の調査と、30年前の調査の2つ。また、回答している人は調査票の言語に対応できた方だけということについては念頭において、データを読んでいくべきと考えている。

A委員	ネパールの方が結構困っていらっしゃるとの結果が出たということだが、ネパール語の調査票があったという点大きいと思う。
-----	---

(5) 現状と課題についての意見交換

C委員	<p>大きく2点お話ししたい。</p> <p>一つ目は、多文化共生への理解がどのくらい浸透していくかがこれから大変重要だと思っている。日本で暮らす外国人の方に必要なサポートをすること、外国人の方と一緒に地域をつくっていくことの必要性を多くの人に理解してもらいたい。そのための施策を打っていくためのプランだと思うが、私自身の反省も踏まえて、多文化共生という考え方そのものに抵抗感がある人、外国人の方が増えることに対する漠然とした不安感のある人、こういう人たちを置き去りにしてしまうと、結局多文化共生施策がなかなか進めにくくなる状況を生じてしまうと、この27年を振り返って反省している。アメリカのトランプ政権が誕生した理由もそこにあったのかなと思う。</p> <p>色々なマイノリティの人権を守ってダイバーシティを進めていくことについて、一生懸命アメリカ以外の国もみんな頑張ってきたと思うが、そこに対して不安を覚えている人を置き去りにしてしまったと思う。本当は政策施策全般に課題があるから新たな貧困や混乱が生じているのに、それがあたかもマイノリティの人たちを大切にしているから、自分たちがないがしろにされているのだと受け止める人が出てしまった。そのことは、ダイバーシティや多文化共生を進めてきた人たちは、私も含め、反省すべきだと思っている。多くの人々の理解を得ながら多文化共生を進めていかないと、新しいチャレンジも困難になってしまう。そのことについて慎重に考えなければならない。これからの私たちの地域社会は色々な文化背景を持つ人と一緒にやっていくのだということへの理解を丁寧に広めていかなければならない。</p> <p>今回プランを作るに際しても、外国人の方が今置かれている現状課題についてしっかり踏まえて、その課題解消に努めることが第一だが、同じぐらい武蔵野市民全体に対して多文化共生がいかに重要なのか、そして漠然とした不安をお持ちの方に対して根拠のある形で、こう進めていくことが市民全体にとってプラスになると丁寧に発信していくことが重要。</p> <p>私が今日午前中や昨日参加していた自治体は人口が減っていて、大学も最近ようやく一つできたが、日本人のボランティアも高齢化していて、非常に心もとない状況。一方で外国人人口はととも増えている。武蔵野市と状況がまるで異なる。武蔵野市の場合これまで多くの市民の参加を得ながら色々な活動をしてきたとので、そこをもう少し丁寧に見つめ直して、今まで以上に多くの市民の方々の理解をしっかりと得る。なんとなく不安を覚えてらっしゃ</p>
-----	---

	<p>る方に対しても丁寧なケアをしていくことが大事だということが一つ目。</p> <p>もう一つは、武蔵野市におけるダイバーシティ政策全般の向こう5年、10年のあり方が、第六期長期計画でもあまり見えない。言葉としては多様性を認め合い、尊重し合う平和な社会の構築とあって、セクシャルマイノリティのことも触れてはいるが、大きな方向性は見えない。</p> <p>武蔵野市の近くだと、世田谷区で2018年に条例を作っている。「世田谷区多様性を認め合い男女共同参画と多文化共生を推進する条例」という長い名前の条例を作っていて、事実上ダイバーシティ条例。同じ条例の中に男女共同参画と多文化共生と、セクシャルマイノリティとヘイトスピーチへの対応も入れている。私はその審議会の委員を3月まで勤めていたが、都市部らしい施策の切り口だと思う。同じ条例の中で多文化共生を扱ったことで、例えばセクシャルマイノリティの外国人の方の相談や、入居差別のことも同性カップルで借りにくいことと、外国人だから入居できないことが同じテーブルで議論できた。ダイバーシティ政策全般を武蔵野市の中で扱ってほしいと思う。男女共同参画やセクシャルマイノリティの方の課題などを視野に入れながら議論できればと思う。例えば、同性婚は死刑になる国も法的に認めている国もあるし、男女共同参画も日本より進んでいる国も遅れている国もたくさんあり、多文化共生が入ると他のダイバーシティの 이슈の議論が深まる。</p> <p>逆に、他の課題の中にも外国人の方が当然いらっしゃる。障害者の方もいらっしゃる。お互いに相乗効果が出るように他のダイバーシティの分野テーマで、武蔵野で取り組んでいること、あるいはこれから取り組もうとしていることがあれば、そのことと多文化共生プランとうまく連動させてもらいたいと思う。次回の骨子にぜひ今申し上げた2点を入れていただければと思う。</p>
D委員	<p>私もこの10年間、罪を犯した知的障害がある方の支援や研究をしてきた中で、どのように啓発活動をしていくかを、あまり考えず啓発活動をしていたという反省がある。そのような方たちが一定数いて、その方たちは往々にして不遇な状況にあり、やむにやまれず窃盗をし、だから支援が必要だと一生懸命10年かけて講演や論文、本等で広めてきたつもりだった。</p> <p>ただ、最近振り返ると、一向にその理解者は増えておらず、何が失敗だったのかを考えたとき、わかりやすく言うと、こんな大変な状況にある人たちがいて、こんな支援が必要だから、皆さんそこは理解してほしいという言い方になっていた。それだと関心を持ってくれる人が非常に少ない。要は自分ごとではなくなってしまう。</p> <p>ではどうすればいいか具体的な方法までは今のところ思いついていないが、理解者を増やすためにいかにそこを戦略的にやっていくか、どのように</p>

	<p>自分ごととして捉えてもらえるかを考えて啓発していかなくてはならないと思う。その当事者の方たちからすると冷たく感じるかもしれないが、そのような方たちを支援することは結果的に自分にこのように返ってくる、だから支援していきませんかと呼びかけていけるといいと思う。その言葉や方法はこれから考えなくてはならないところ。</p>
E委員	<p>できるだけ包摂型というか、参加型にしていくのが非常に重要なと思う。他人ごとではなく、まさに自分がいろんな意味で関わっていく環境や場を設定していく、というのがパブリックの役割かなと思う。その中で、どういふふうには市民の方々＝アクターが動いていくかは予測できないところもあると思うが、そういう機会を増やしていくのは非常に重要だと思う。</p> <p>それとはまた別で、まだ非常に思いつきの域を出ないが、アンケートの結果などを見て、ワンストップサービスセンターがないなと思った。例えば市役所でも、いろいろな部署に電話がかかってくる、それぞれ対応に困っていると思うが、窓口が一つにまとまっていれば、どこに聞けばいいかわからないということもないだろうし、そこの方がある程度語学ができれば、第一義的に対応できると思う。そういう仕組みを工夫できる余地はあると思う。</p> <p>それから、先ほど東京の三鷹市、西東京市、武蔵野市のうちでどこに住むかはみんなが選べることだ、という話をしたが、逆に言うと武蔵野市で全部やる必要はなく、隣接市や区と一緒にリソースを少しずつ出しあって、あるいは武蔵野市はこれをやるから隣はこれをやる、みたいな形でやっていくのもあると思う。10 数万の都市で全部を担うということではないかなと思った。アンケート結果等々を見ると、あまり困っていない人が多いということも含めて、長い期間武蔵野市に住んでいて日本語もそれなりにできる方が結構いて、もちろん困っている方もいらっしゃると思うが、おそらく他の市や区との比較においては相対的にそういう部分があると思う。だから先ほどあったように、普段の日本語にはそれほど不便はないが、医者に行くときや災害が起きたときには困るといった、それを高度な日本語と言うのかはわからないが、そういう対応に武蔵野市はリソースを割くという考え方もあると思う。</p> <p>それから、留学生が多いのは非常に特徴的だと思う。留学生の方こそ本当に親日家になっていただいて、将来自分の国に帰って、あるいは日本に住んで、色々な意味で日本との架け橋になっていただく方々だと思う。留学生の方でアンケートに答えてくださった方は、自分たちも何かやりたいとおっしゃっているので、お互い Win-Win な状況を作っていければと思った。</p>
F委員	<p>「多文化」というのは、日本の文化も含めて本当に全ての文化と捉えないといけないと思っている。どこの国でも自分の考えを強く持っている人は、</p>

	<p>自分とは違う考えに対して、受け入れられないと反応する。それは別におかしくはないが、ではどうやって自分ごととして感じてもらえるようになるかという、一番よいのは、普段の生活の中に自然に外国人たちがいることだと思う。非常に簡単だが、実行するのは難しいことで、例えばアメリカは共存じのように、色々な文化の人が存在する前提で建国されたので、いろいろなことをやるときに、自然と考え方が少し複雑になる。武蔵野市がイベントを行うときに、多文化共生の担当でなくても、英国系の人や中国系の人参加するかもしれない、という前提をもって実施されるようになると良いと思う。そうすれば自然にイベントで様々な文化の人が参加すると思うので、普段はあまり接触していない日本の方も、ふれあう機会が増えれば拒否感も低くなると思う。ぜひ、この多文化を強調し過ぎず、日本文化も含めて多文化であるという認識が広まるプランになればと思う。</p>
A委員	<p>普段、在住外国人と交流したいとか、興味がある方ばかりが集まってくるので、多文化共生はもうできているじゃないか、武蔵野市は本当に多文化共生に理解のある人ばかりだ、とつい思ってしまうが、そうではなく、私たちから見えないところに不安感を持ってらっしゃる方とか、取り残されたと思っている方がいるということ肝に銘じて、丁寧に説明していきたいと思った。</p>
G委員	<p>やはり武蔵野市ならではのものを、いろいろなご意見の中でいただいて、すごく嬉しく思う。やはり武蔵野市が選ばれるまちであって欲しいという思いがある。選ばれると言ってもいろいろな切り口があって、暮らしやすいとか、おいしい食べ物屋さんがあるとか、いろいろある中でも人がすごく魅力的だ、というのが一つの特徴だと思っている。その「人」というのは国籍も何も関係なく、様々な魅力的な人たちがいるまちが、いいまちだと思っている。そういう意味では、多文化共生という一つのプランでお集まりいただいているが、スタッフ間でいろいろと話をすることで、多文化共生プランが最終的に目指すべきは実は多文化共生という言葉がなくなることかもしれない、という話もした。身近なことで交わるなかで、障壁を感じることもなく、当たり前になっていくというのは、すごく大事な視点だなと思った。</p> <p>先ほどダイバーシティの話があったが、市の中でダイバーシティということを一貫するようなプランがあるかという、今のところはない。武蔵野市の中では男女共同参画のセクションも別にあり、パートナーシップ制度を今年の4月から始めている。一つに貫くような形でやっている感じではないが、今回のプランの策定の中でもある程度議論ができるといいと思っている。</p>
D委員	<p>資料6の最後のページの「多文化共生の推進に係る指針・計画の策定状況」で、事務局も他の自治体を参考に骨子をつくっていると思うが、もしこうい</p>

	<p>うところが参考になるとか、こういうところはうちでは取り入れないといったものがあれば、見せていただきたい。</p>
事務局	<p>ここが、というのはなかなか出せないが、昨年度調査した時点では多摩 26 市の中では 3 市しか多文化共生単独のプランができていない状況。全国には様々なプランがあるが、日本人の人口が減っていく段階に入ってきている状況で作っているものと、武蔵野市のように人口の 2% を占める方のことを書いているものとは温度差がある。</p>
D 委員	<p>私も他の自治体の再犯防止計画に携わっていて、自治体で比較するとバラバラ。温度差どころか切り口も違うし、扱っている部署も違うので、参考にしながら、委員の方々からも出ていたように、他の自治体のモデルになるようなものができたらいいと思う。</p>
C 委員	<p>総務省が多文化共生の事例集をまとめて発表している。一昨年改定した総務省の多文化共生推進プランを四つの柱に分類してそれぞれの分野の好事例を紹介しているのと、五つ目の柱として、そういった推進体制の整備や、プラン策定の好事例も何自治体か紹介している。そこに好事例として出てくるのが私もずっと関わっている京丹後市のプランで、作ってからのフォローアップの体制をしっかりと書いているところが特徴。プランをつくった後、どうやってその進捗管理や改善をしてまた改訂版を出していくのかという作った後のプロセスも非常に重要。総務省の事例集は分野ごとの事例もいろいろ参考になるし、ぜひご参照いただければと思う。</p> <p>部署がバラバラというのはこの分野も同じで、法律に基づいていないので、都内の自治体でも多文化共生を担当している部署はバラバラだと思う。西日本に行くとな権を所管するところが担当していることが多いというトレンドがある。</p>
E 委員	<p>何を目標にするのかという明確なものはあるか。よい共生社会を作りたいというのは、聞こえはいいが、具体的に何をどこまで目指すかというのは、実は本質的な話だと思っている。</p>
事務局	<p>今回のプランを作る前提になるが、市の最上位の計画は長期計画。基本的には第六期長期計画に書いてある「多文化共生社会の実現に向けて日本人と外国人がともに理解し尊重しあい活躍できる環境整備をする」ためのプラン、という前提でご議論いただきたい。ただ、長期計画の記載は抽象度が高いので、具体的な議論も可能だと思う。</p> <p>それから今回のプランと並行して第六期長期計画・調整計画の策定が始まるが、今年度私たちが先行してこのプランを作ることで、来年度策定する第六期長期計画・調整計画の書きぶりが少し変わるということもあると思う。そういった点も踏まえて、ご意見を積極的にいただきたい。</p>

D委員	私は長期計画の委員も委嘱されているので、委員のみなさまの意見を調整計画に持っていきたい。
C委員	<p>先ほど国のロードマップの話をしたが、ロードマップと同時に総合的対応策というのが出ていて、これは2018年から毎年政府が出しているもの。各省庁の外国人関連の施策についてかなりの数を列挙していて、この3年ほどは自治体の次年度予算に反映させるため、6～7月に出すようになった。例えば国の総合的対応策の中で、武蔵野市としてやりたかったことで、交付金がつくのであればやってみようというのがあれば、概算要求に向けて戦略的に取り組んだらいい。</p> <p>また、先ほどのロードマップは、これまでは単年度で総合的対応策としてだけ示していたものについて、5年間国としてやることを示したもののなので、そういったものも参考にしながら、プランに組み込むと同時に、やれそうなものはどんどんやっていっていいと思う。</p>
E委員	武蔵野市の外国人の在留資格は、教授とか芸術家とか非常にユニークな、ある種のバラエティーがあると思ったが、学校の教育現場における日本語教育において、武蔵野市に特色があるのか、あるいはどのぐらいの外国人のお子様、特に小学生ぐらいがいるのか、もし分かれば教えてほしい。なぜかと言うと、小学生ぐらいからアメリカに行くと言語を母国語としない子どもたちが特別なクラスに集まって語学を学び、半分ぐらいは普通の授業で、最初は英語がわからなくても聞いて、とそういう生活をしながら、だんだん英語がわかってくるという確立されたカリキュラムがあり、日本が本当に共生社会になるためにはそういうものが学校現場に必要なという思いから。
事務局	庁内検討委員会で教育委員会から聞いた内容になるが、市内の小中学校に通っている外国籍の児童生徒数は、5年前ほどは30数名だったのが、去年は70名ほどに増えた。日本語ができないお子さんには、帰国・外国人教育相談室で日本語を指導する時間を別に設けている。それから、MIAでは日本語や日本の制度がわからない方の進学などについて、相談会を開いている。
A委員	武蔵野市の教育委員会は、この周辺の自治体に比べると非常にサポートが手厚いと思う。帰国・外国人教育相談室を置いて、日本語の学習支援の必要な子供が入ってきた場合に、授業から取り出して言語サポートしたり、その子どもが話す言語ができる人が横について、最初は生活支援を行ったりという形をとっている。その時間数が、ある程度生活に必要な日本語ができるまでということで、これも他市区と比べて割と長めというか比較的充実した時間を割いているが、それでも生活に必要な言語レベルにしかならないので、その後の教科学習に必要な日本語の習得にはもう6、7年かかると研究者の方には言われている。そのほか、教育委員会で実施しているボランティアの

教室や、MIA で開催している子ども教室などに来て、子どもたちの学校の宿題のお手伝いをするなどの伴走支援を行っている。

(6) その他

プラン策定にあたって、日本国籍の市民に対しても何らかの調査をする必要があるか、事務局から提起され、できるのであれば実施したほうがよいという意見で一致した。